

担い手ネットワーク協議会設立される

【平成 29 年 5 月 24 日掲載】

北広島町では、平成 28 年秋から、新たな水田農業の確立を目指して旧町単位で「担い手ネットワーク協議会」の設立を進めており、担い手の広域連携による一層の経営規模拡大やコスト削減等の取組が始まっています。

北広島町では、水田の 8 割で米が生産されていますが、需給調整の仕組みの転換や、米の直接支払交付金の廃止が平成 30 年産から予定されており、生産環境が大きく変わろうとしています。

3 月 29 日に大朝地域担い手ネットワーク協議会（会長 大畠和典（おおばたけ かずのり）、構成：7 農業法人、1 営農組織、8 大型農家、関係機関）、4 月 17 日に芸北地域担い手ネットワーク協議会（会長 小川和夫（おがわ かずお）、構成：4 農業法人、7 営農組織、16 大型農家等、関係機関）の 2 協議会が設立されました。

協議会設立に向けた話し合いでは、地域の担い手から「既存の担い手だけで農地を守ることは難しく、協議会の活動として新たな担い手を育てる視点も必要だ。」との意見がありました。西部農業技術指導所は、大規模な営農組織による担い手育成事例などを紹介し、合意形成を支援して、参画者全員の賛同を得た設立につながりました。

現在、千代田地域や豊平地域でも協議会設立が進められています。



【大朝地域 設立総会風景】



【芸北地域 設立総会風景】